

私たちには

平和を守る義務がある 2015/08/03

中 1 久木山 怜那

日本は今年で戦後 70 年を迎える。そのことについてあらためて考えたとき、戦時中に生まれた祖父の話聞いたことがあるのを思い出した。祖父が生まれてから 3 年後に戦争は終わった。

幼いころのことはさほど覚えていないらしいが、戦後は食べ物が「配給」という形で配られ、現在のように満足して食べられることは少なかったそうだ。私はあらためて食べ物への感謝の気持ちを実感した。

戦争というと広島や長崎を思い出すが、鹿児島では特攻隊が南方に向け飛んだことが知られている。特攻隊は若い人が主で、敵艦船に戦闘機に乗ったまま突っ込むというものだ。その飛行機に乗っていた人は帰ってこない。

当時、日本では「お国のために」という精神で特攻隊や兵隊に志願し、戦った。一方で親族の方の気持ちを考えると、計り知れないほどの悲しみだったに違いない。だからこそ、命がけで守ってくれた日本の平和を守らなければならない義務が、私たちにはあると思う。

戦争は二度としてはならないものだ。決して繰り返してはならない。これからも絶えずそのことを語り継ぎ、国民一人ひとりが平和について考え、後世にまで平和な日本を受け継いでいきたい。(伊佐市)